

私は、自分の講演でこんなワークをします。

「あなたが一番お気に入りの言葉を、漢字一字で表現してみてください。」

自分の名前を選ぶ人も多いし、「愛」「和」

「慈」「神」「夢」「希」「望」・・・人生いろいろですね。私は、何の迷いもなく、

「優」を選びます。昔から好きだった海援隊の武田鉄矢さんが高校生の時に、社会科の先生から頂いた素敵な字「優」。私は、そのエピソードに魅せられました。生まれて初めて漢字の持つエネルギーを強烈に感じました。思えば、この字との出会いが、私を“言葉の旅”に誘ってくれたのでした。

「優」にまつわるエピソード

今から二十年前のことなのですが、忘れられない思い出があります。教育実習にいった学校でのことです。放課後の

教室で次の日の準備をしていました。そのとき、廊下から私を呼ぶ子どもがいました。

「先生、早く来て。何か変なことをしようねん。」

すぐ隣の教室で、一人の女の子がカッターナイフで自殺めいた行動をし、五人ぐらいの男の子が必死で腕をつかみやめさせようとしていました。駆けつけた私もナイフをとろうとしたのですが、石のようにかたまって、大人の力でもどうすることもできませんでした。その時、ふと黒板に目をやると習いたての漢字でしようか、「優」と書いてありました。私は当時大好きだったフォークグループ海援隊の武田鉄矢さんから聞いた話を必死に彼女に語りかけました。

「今日、『優』の字習ったんだね。本当の意味知ってる？人の横に悲しみが立ってる、憂いが立ってる、だから、心の中に

悲しみがいっぱいあるあなたのような人こそ、ほかの人に優しくできるんだよ。だからこそ、生きるんだ・・・」

そんな話をしてるうちに一瞬彼女のナイフを握る力がゆるんだのです。今がチャンスと思いついてナイフを奪いました。そのクラスの担任の先生も駆けつけました。あの日のことは、今でもはっきり覚えています。

授業の中でよく「優」の字の話をしませう。四年生のクラスで話をした後、ある女の子がおそろおそろ手を挙げました。

「先生、そのこっちの方(右の方)『憂』を指して(なんか、『愛』に似てる。)」

一瞬びっくりしましたが、すかさず、「ほんまやね。ええことに気がついたね。形が似ているということは、意味も似てるということやで。」

なんか、そう答えながら泣きそうになったのを覚えています。子どもたちは純粹です。一つ一つの「字」そのものをじっくり感じ取るフィーリングを交流する授業も子どもたちは大好きです。